

天龍峡温泉交流館条例の一部改正について

1 天龍峡再生の実践的な誘客戦略について

現在作成中の飯田市観光ビジョンのロードマップにおいて、天龍峡と天龍峡温泉交流館を観光拠点と位置づけ誘客戦略を作成していく。

2. 天龍峡温泉交流館の役割

天龍峡温泉交流館は、天龍峡の歴史文化に触れる癒しと交流の拠点として重要である。

(1) 天龍峡の自然・歴史・文化などの案内展示（ガイダンス施設）

- ・名勝天龍峡の魅力を展示し、訪れた人が遊歩道を散策したくなる情報を提供していく。

(2) 温泉を利用した休憩と地元食材による食事の提供(交流と休憩の場)

- ・遊歩道を散策した人に温泉による癒しの休憩と、地元食材を利用した食事（天龍峡そば）の提供を行っていく。
- ・保全管理活動や地域活動後に温泉や食堂を利用することで、癒しと交流の場を提供していく。
- ・龍角峰の眺望が楽しめるように、露天風呂整備を行っていく。

(3) 名勝天龍峡の保全管理を含めた地域活動の拠点施設（文化財の保存活用）

- ・名勝天龍峡の保全管理活動の拠点や、そば打ち教室など地域の資源を利用した地域活動の場として多目的ルームの整備を行っていく。

3. 天龍峡温泉交流館集客への取り組みについて

次の取り組みを飯田市、指定管理者が中心となり、天龍峡温泉観光協会や地区まちづくり委員会、(株)南信州観光公社などと連携して集客へ取り組む。

(1) 現在までの天龍峡活性化及び集客への取り組み

- ①四季折々のイベントを開催することで集客を図っている。
- ②天龍峡ご案内人の会や昭和乙女の会と連携し、おもてなし観光により集客を図っている。
- ③天龍峡百年再生館に観光案内所を設置し、観光情報を発信している。
- ④天龍峡温泉観光協会を支援し、遊歩道や公園周辺の草刈り作業等を実施し名勝天龍峡の維持管理を行っている。

(2) 改築後の温泉交流館を活かした天龍峡活性化への取り組み

- ①遊歩道散策や温泉を活用した健康促進の場として、公民館や健康教室等と連携し利用促進を図る。
川路・龍江地区ともに、ウォーキング教室を天龍峡で実施しているので定期的な開催により温泉交流館の利用促進を図る。

- ②今田平農事組合・ココロファームビレッジ・かぶちゃん農園・川下り舟などの近隣の事業者と連携し、農業体験を伴う食と温泉をセットにした観光プランを開発して利用促進を図る。
今年度、(株)南信州観光公社が市田柿づくり体験旅行を、天龍峡も工程に入れ企画し好評であった。
- ③JR 東海や川下り舟会社との連携や飯田観光協会会員の観光関連事業者と連携した観光プランづくりにも取り組むことで利用促進を図る。
今年度、天龍ライン下りが中心となり JR 東海の秘境号、川下り舟、ご案内人による遊歩道散策、リンゴ狩り、アザレアでの地元食材によるお弁当を組み合わせた観光プランを実施し好評であった。
- ④体験教育旅行の受入農家と連携し、入浴施設として利用促進を図る。
- ⑤ラドン温泉の効能を発信し、新たな露天風呂の情報も発信し、地域に密着した施設として利用促進を図る
- ⑥そば祭りやそば打ち体験など、温泉交流館を会場にした各種イベントを随時開催し利用促進を図る。
- ⑦免疫力を高め、現代病に効果があると言われるラドン温泉の特徴を活かし、観光プランを開発し旅行会社と連携し利用促進を図る。
例として、都市部の女性をターゲットにした美、健康、食（野菜・果物）がテーマの観光プランなど。

4. 経営計画について

(1) 天龍峡温泉交流館の利用者目標

温泉交流館の利用者目標を次のように算出し、指定管理者が事業計画を作成した。

- | | |
|--|----------|
| ○ 平成 29 年開館時の利用者目標 | 28,000人 |
| ・リニューアル（露天風呂・サウナ）効果 | 約12,500人 |
| ・公民館等の地区行事による利用 | 約 1,500人 |
| ・ご案内人による誘導で | 約 3,000人 |
| ・周辺観光施設との連携による利用で
リンゴ狩りや今田平（いちご・ぶどう狩り）の家族などの小グループや体験教育旅行の宿泊者入浴利用などで | 約11,000人 |
- 入浴料は500円とする。
・周辺日帰り温泉施設の利用料や、露天風呂、サウナなどの新しいサービスを受けられる事を考慮して設定した。
- 例年並みの指定管理料を前提に、(株)農耕百花に事業計画の検討を依頼した。

(2) 指定管理者から受領した事業計画書について (別紙参照)

- この事業計画書は(株)農耕百花が、経営悩み相談窓口（飯田市金融政策課と飯田商工会議所中小企業相談所が運営する相談窓口）の協力・助言を受けて作成した。
- ・事業計画書の作成により、会社としての経営理念を明確にするとともに、経営基本方針を定めた。

- ・組織体制の課題を検討することにより、今後の対応策も検討し、経営能力の向上・営業力の向上・商品力の向上・スタッフの能力向上に向けて、各役員とスタッフが、なにを・だれが・いつまでに・どのような水準にするかを明確にした。
- ・財務内容についても、現状の分析、課題の整理を行い、対策を検討するとともに、飲食事業、温泉事業、それぞれに必要な経費を積算し、財務目標を立て月次管理を行っていくこととしている。

(5) 事業計画書の提出を踏まえた、飯田市としての業績予想結果

- ・事業計画書では安定した運営に必要な売上高と来館者数を定め、指定管理料を含める中で黒字化できる営業を目標としている。
- ・しかし、当面厳しい経営環境が続くため、適正な月次管理が必要である。
- ・天龍峡温泉交流館は、天龍峡再生・天龍峡活性化には重要であり、飯田市と指定管理者が中心となり、地区関係団体・観光業者等と連携して利用促進を図っていく必要がある。
- ・将来的には平成31年度に予定される天龍峡大橋の開通による誘客効果として、約15,000人の上乗せを見込み利用者目標40,000人、指定管理料がなくても黒字経営が可能となることを目標とする。